

株式会社 アプリックス

平成18年12月期第2四半期

注意事項

本資料には、2006年8月15日現在の当社及び当社グループの将来に関する前提・見通し・計画に基づく予想が含まれておりますが、その性質上、国内外での経済動向・市場の需要・為替レート・税制等の制度変更といった潜在的リスクや不確定要素によって変動する可能性が存在します。当社は、このような情報内容を保証するものではなく、株主および投資家の皆様がこのような情報を使用されたことより生ずるいかなる損害についても責任を負うものではありません。

この資料に含まれる金額は、注記がない限り単位未満桁の数値を切り捨てております。



代表取締役会長
最高経営責任者 兼 最高技術責任者

郡山 龍

代表取締役社長 最高執行責任者

関野 正明

取締役 最高戦略責任者

Wesley Kuo

執行役員常務 R&D本部 本部長代理

吉本 晃

執行役員常務 S&M本部 本部長代理

高尾 慶二

取締役 最高財務責任者

山科 拓

第2四半期ハイライト



■ 事業進捗状況

- JBlend出荷台数:約3,276万台
 - 前年同期比約87%の成長
 - 累計出荷台数は2億3318万台
- 携帯電話向けJava
 - Motorola向けは引き続き高水準を維持
 - NTTドコモ、Samsung Electronics向けの出荷が高成長
 - 台湾Quanta Computerの3G端末への採用
- フレームワーク事業
 - QualcommのBREW向けソリューションの発表

■ 第2四半期業績

- 売上高: 2,435百万円
- EBITA: 1,049百万円
- 営業損益: 126百万円

中間期業績



■ 中間期の主なポイント

- 売上高: 想定を上回って推移
- 外注費の一時的な増加
- 資産計上予定の開発費の費用認識

	2005年12月期 上期	2005年12月期 下期	2006年12月期 上期(計画)	2006年12月期 上期(修正)	2006年12月期 上期(実績)
売上高	1,828	3,200	2,600	3,400	3,452
(前年比)	35.5%	37.4%	42.2%	86.0%	88.8%
売上原価	938	1,358			1,851
粗利益	889	1,844			1,601
(粗利率)	48.6%	57.6%			46.4%
一般費および販売管理費	2,659	3,075			3,245
営業損益	(1,769)	(1,233)	(1,400)	(1,800)	(1,644)
経常損益	(1,735)	(1,226)	(1,400)	(1,800)	(1,616)
当期損益	(1,812)	(1,502)	(1,600)	(2,000)	(1,802)
EBITDA	323	920	796	396	630
(EBITDAマージン)	17.7%	28.8%	30.6%	11.6%	18.3%
連結調整勘定償却前営業利益	77	614	446	46	202
(償却前利益率)	4.2%	19.2%	17.2%	1.4%	5.9%
減価償却	246	306	350	350	428
連結調整勘定償却	1,846	1,846	1,846	1,846	1,846

(単位: 百万円)

四半期業績



■ 第2四半期の主なポイント

- 四半期按分計上を想定していた大型顧客の前払いロイヤリティを一括計上
- 費用はほぼ平準化水準に

	2005年 1-3月期	2005年 4-6月期	2005年 7-9月期	2005年 10-12月期	2006年 1-3月期	2006年 4-6月期
売上高	584	1,244	1,399	1,801	1,018	2,435
(前年比)	35.2%	35.7%	40.2%	35.4%	74.3%	95.7%
売上原価	416	522	698	660	1,035	817
粗利益	167	722	701	1,143	(17)	1,618
(粗利率)	28.6%	58.0%	50.1%	63.4%	-1.7%	66.5%
販売費および一般管理費	1,297	1,362	1,415	1,661	1,755	1,491
連結調整勘定償却	923	923	923	923	923	923
販管費	374	439	491	737	832	568
(のれん代を除く営業費用)	790	961	1,190	1,397	1,867	1,384
営業損益	(1,130)	(639)	(714)	(519)	(1,771)	126
経常損益	(1,119)	(616)	(692)	(533)	(1,775)	158
当期損益	(1,048)	(764)	(805)	(697)	(1,445)	(357)
EBITDA	(88)	411	353	567	(694)	1,324
(EBITDAマージン)	-15.1%	33.0%	25.2%	31.5%	-68.1%	54.4%
連結調整勘定償却前営業利益	(207)	284	210	404	(848)	1,049
(償却前利益率)	-35.4%	22.8%	15.0%	22.4%	-83.3%	43.1%
減価償却	119	127	143	163	154	275
連結調整勘定償却	923	923	923	923	923	923

(単位: 百万円)

売上高



■ 売上高の内訳

- 北米向けロイヤリティが大幅に増加
- 技術支援売上が季節要因等で一巡

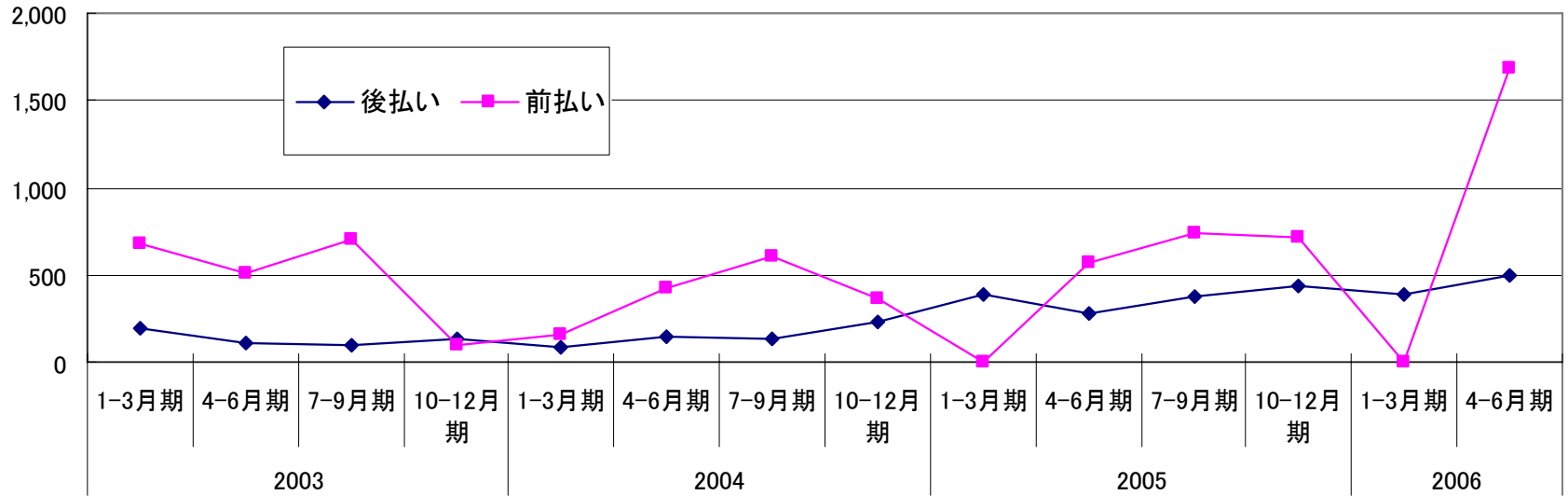
	2005年 1-3月期		2005年 4-6月期		2005年 7-9月期		2005年 10-12月期		2006年 1-3月期		2006年 4-6月期	
	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率
携帯電話関連	555	95.0%	1,210	97.2%	1,351	96.6%	1,735	96.3%	993	97.5%	2,409	99.0%
うち製品売上	414	71.0%	886	71.2%	1,109	79.3%	1,258	69.8%	389	38.2%	2,206	90.6%
うち技術支援	140	24.0%	324	26.0%	242	17.3%	477	26.5%	590	57.9%	188	7.7%
うちその他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	1.3%	27	1.1%
携帯電話以外	29	5.0%	34	2.8%	48	3.4%	67	3.7%	24	2.4%	26	1.1%
うち製品売上	18	3.0%	22	1.7%	35	2.5%	53	2.9%	23	2.3%	19	0.8%
うち技術支援	2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	0.3%
うちその他	10	1.7%	13	1.0%	13	0.9%	14	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
合計	584	100.0%	1,244	100.0%	1,399	100.0%	1,801	100.0%	1,018	100.0%	2,434	100.0%
ライセンス/ロイヤリティ		74.0%		73.0%		81.8%		72.7%		40.5%		91.4%
サービス		24.3%		26.0%		17.3%		26.5%		57.9%		8.0%

	2005年 1-3月期		2005年 4-6月期		2005年 7-9月期		2005年 10-12月期		2006年 1-3月期		2006年 4-6月期	
	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率
日本	274	46.9%	455	36.6%	925	66.1%	983	54.6%	889	87.3%	610	25.1%
北米	138	23.6%	611	49.1%	308	22.0%	316	17.6%	8	0.8%	1,693	69.5%
欧州	101	17.3%	95	7.6%	71	5.1%	71	3.9%	1	0.1%	4	0.2%
アジア	69	11.8%	83	6.7%	95	6.8%	431	23.9%	120	11.8%	127	5.2%
合計	584	100.0%	1,244	100.0%	1,399	100.0%	1,801	100.0%	1,018	100.0%	2,435	100.0%

(単位:百万円)

■ 前払いロイヤリティと後払いロイヤリティ

- 後払い: 安定的に増加
- 前払い: 四半期按分計上を想定していたものが第2四半期に一括計上



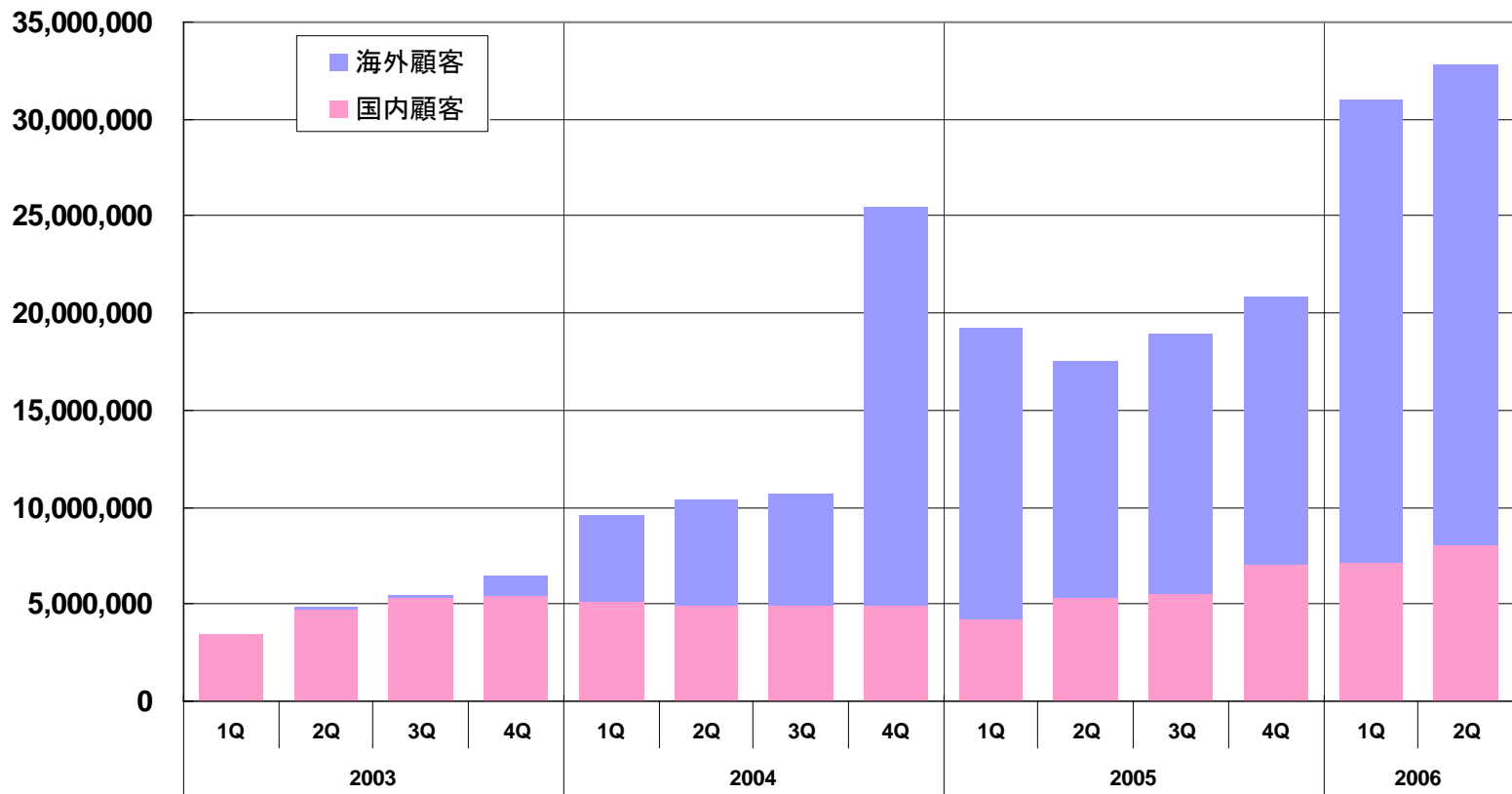
	2003				2004				2005				2006	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期
後払いロイヤリティ	190	115	96	134	87	147	132	230	389	277	371	439	383	498
前払いロイヤリティ	676	506	708	91	153	419	607	361	0	571	744	715	0	1,684
ロイヤリティ合計	866	621	804	226	240	567	740	591	389	848	1,116	1,154	383	2,182

(単位: 百万円)

出荷台数の動向



■ JBlend出荷台数



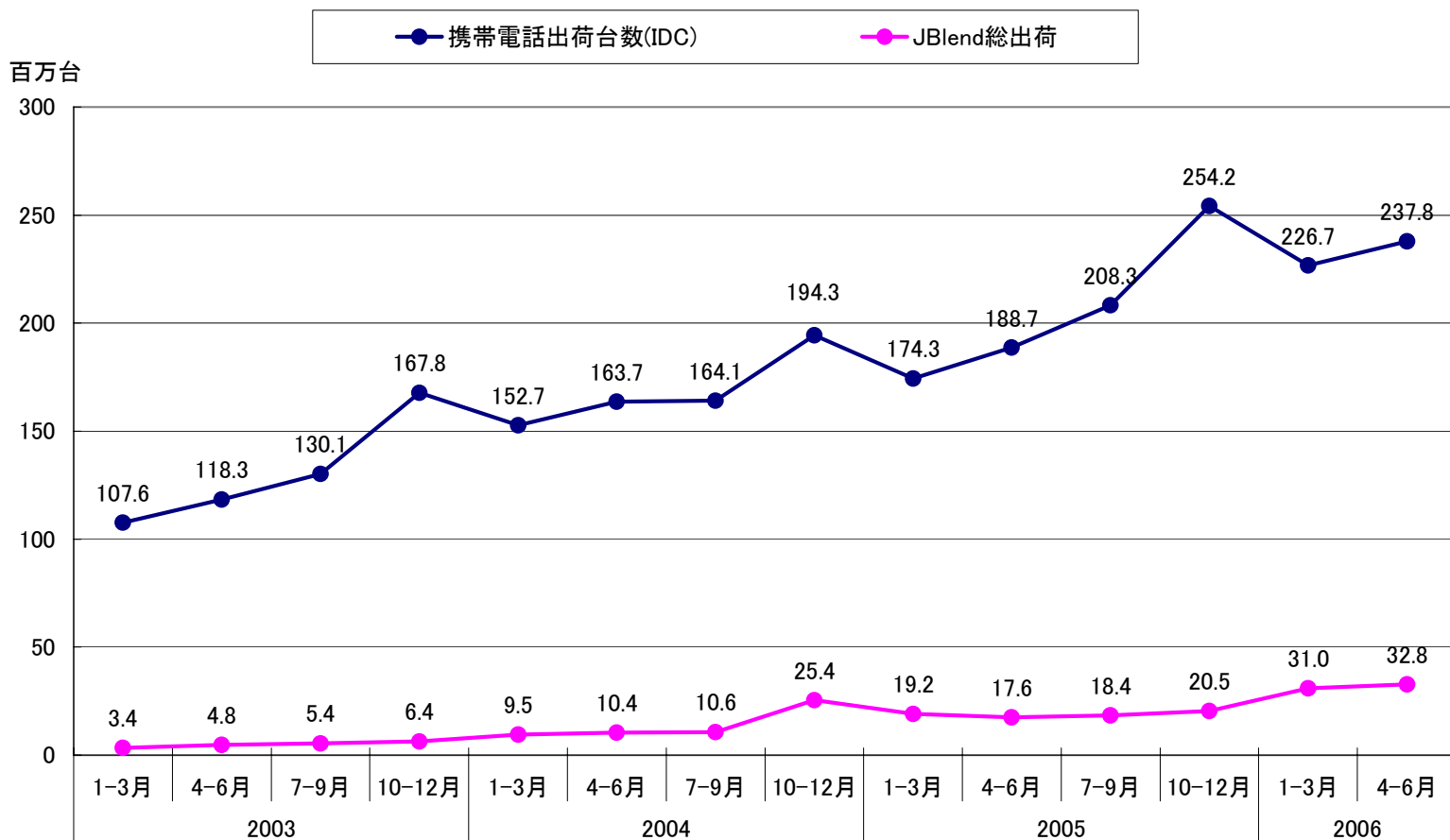
	2003年				2004年				2005年				2006年	
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月
国内顧客向け	3.3	4.7	5.3	5.4	5.0	4.9	4.9	4.9	4.2	5.3	5.4	7.0	7.1	8.0
海外顧客向け	0.0	0.0	0.0	0.9	4.4	5.4	5.6	20.4	14.9	12.2	13.4	13.7	23.8	24.7
合計	3.3	4.8	5.3	6.3	9.5	10.3	10.6	25.4	19.2	17.5	18.9	20.7	30.9	32.7
累計	20.3	25.2	30.5	36.9	46.5	56.8	67.5	92.9	112.1	129.6	148.6	169.4	200.4	233.1

出荷台数の動向



■ グローバル市場

- Java搭載比率は50%超
- Java搭載端末におけるシェアは20%超
- 引き続きメーカーの内製ならびに開発委託が大半を占める



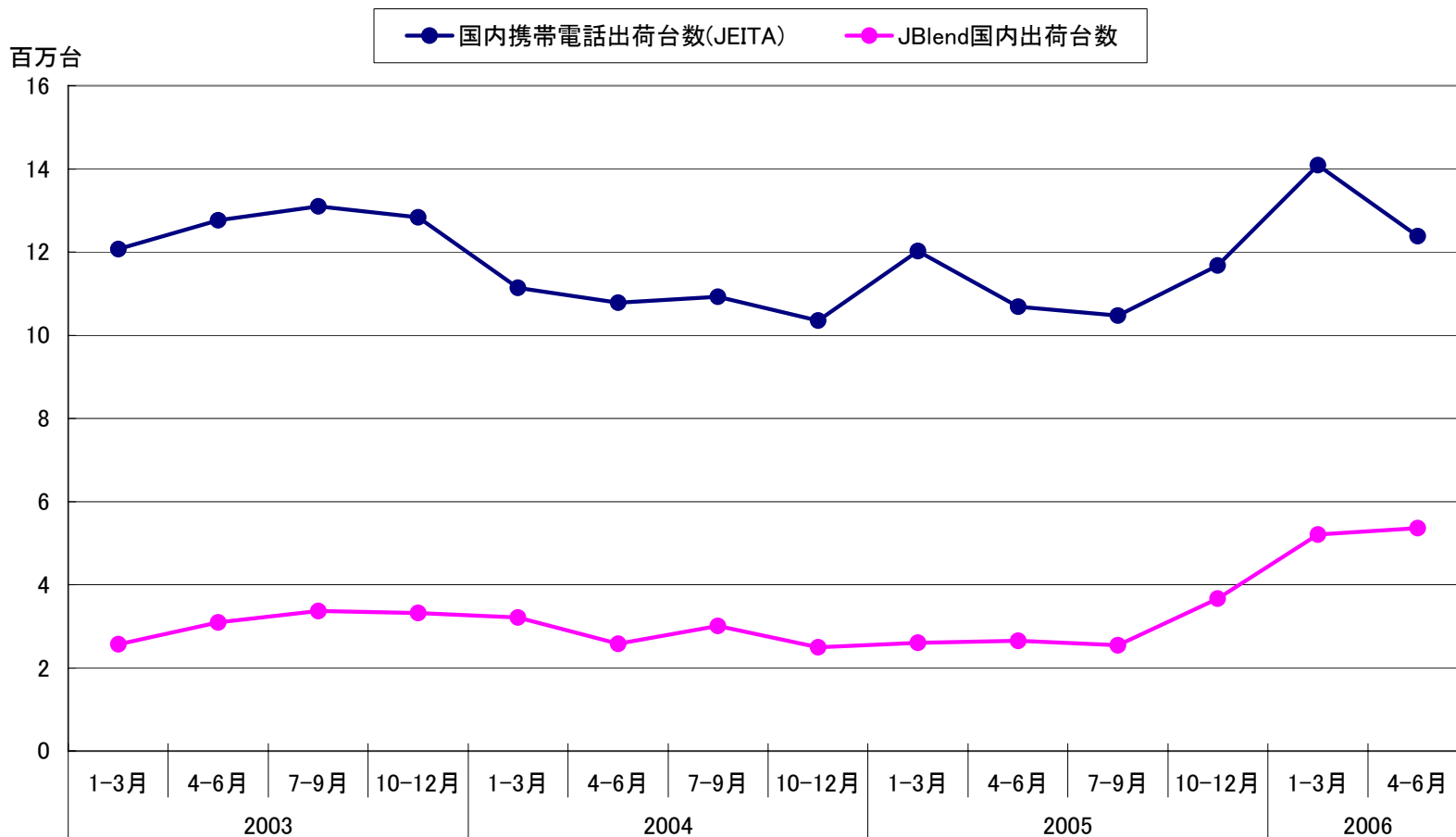
注) 携帯電話出荷台数にはJavaを搭載していない端末も含まれます

出荷台数の動向



■ 日本市場

- Java搭載比率は60%超 — 四半期で約800万台
- Java搭載端末におけるシェアはドコモ向け商用出荷本格化で急速に改善



注) 国内携帯電話出荷台数にはJavaを搭載していない端末も含まれます

出荷台数の動向

- アジア市場

- Samsung Electronics、BenQ-Siemens、Lenovo向けが伸張

上映のみ

■ 中間期: 期初計画比 約10~11億円増加

■ 第1四半期の一時的要因: 約5~6億円

- テストコンテンツ赤字案件による一時的費用増: 約3.5億円(期初計画より約2億円増加)
- 資産計上予定の新規ソフトウェア開発費の費用認識: 約3億円

■ 第2四半期の一時的要因: 約1億円

- 高水準のロイヤリティ売上高に伴うソフトウェア資産償却の増加: 約1億円
- 売上高の按分計画から一括計上への変化に伴うもので、年間の償却額計画は変化なし

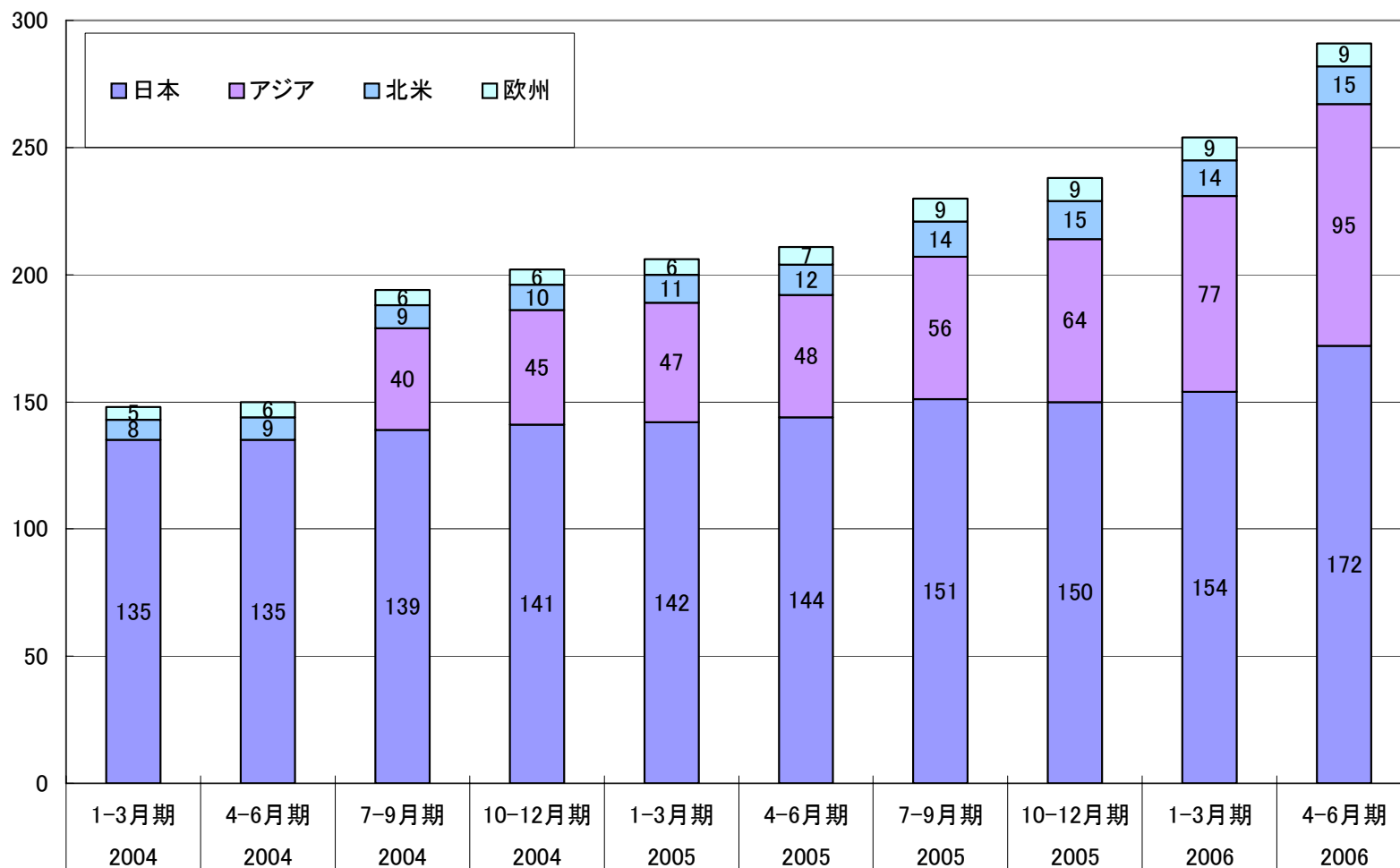
■ 上記以外の計画との差異: 約4~5億円

- 主に原価
- 原価計上・資産計上等の振分について、経営企画側の見通しが楽観的だったことが主要因

	2005年 1-3月期	2005年 4-6月期	2005年 7-9月期	2005年 10-12月期	2006年 1-3月期	2006年 4-6月期
売上原価	416	522	698	660	1,035	817
人件費	226	245	235	253	254	286
外注費	172	214	306	664	1,203	800
ロイヤリティ	106	125	334	144	130	175
減価償却費	113	122	137	156	147	267
その他	85	111	111	115	155	155
(製造費用計)	704	818	1,123	1,332	1,889	1,683
仕掛増減	(10)	(6)	(74)	(121)	96	49
他勘定振替	(276)	(291)	(351)	(552)	(950)	(916)
販売管理費(連結調整勘定償却を除く)	374	439	491	737	832	568
人件費	168	167	187	193	226	251
研究開発費	40	66	97	219	350	66
減価償却費	5	6	6	6	7	7
その他	161	200	202	318	249	244
合計(連結調整勘定償却を除く)	790	961	1,190	1,397	1,867	1,384
連結調整勘定償却	923	923	923	923	923	923

■ 従業員数の推移

- 第2四半期末で291名
- 引き続きアジア地域での増員



バランスシート



■ 第2四半期の主なポイント

- ソフトウェア資産の増加
- 連結調整勘定償却が終了

	2004年12月期 期末	2005年12月期 期末	2006年12月期 中間期末
流動資産	6,249	19,968	13,397
現預金	4,425	17,284	9,312
有価証券	-	-	1,400
売掛金	1,497	2,115	2,042
棚卸資産	0	211	68
繰延税金資産	58	71	92
その他	268	309	515
貸倒引当金	(1)	(22)	(32)
固定資産	7,058	3,892	8,225
有形固定資産	156	140	165
無形固定資産	6,635	3,306	2,629
ソフトウェア	623	1,023	913
ソフトウェア仮勘定	446	417	1,698
連結調整勘定	5,539	1,846	0
その他	25	20	18
投資その他の資産	266	446	5,431
投資有価証券	98	277	5,095
その他	168	169	336
資産合計	13,308	23,859	22,511

	2004年12月期 期末	2005年12月期 期末	2006年12月期 中間期末
流動負債	954	1,749	1,333
買掛金	21	483	582
短期借入金	455	340	0
1年以内返済予定長期借入金	34	31	15
未払金	286	340	285
未払法人税等	3	381	248
その他	152	174	202
固定負債	39	3	0
長期借入金	30	0	0
繰延税金負債	0	2	0
その他	8	1	0
少数株主持分	0	0	0
純資産合計(資本合計)	12,314	22,108	20,289
資本金	6,713	13,232	13,236
資本剰余金	7,628	14,148	14,152
利益剰余金・その他	(2,027)	(5,272)	(7,099)
負債・少数株主持分・資本合計	13,308	23,859	22,511

(単位:百万円)

■ 第2四半期の主なポイント

- 前払いロイヤリティによる売掛金の増加
- ソフトウェア資産への計上が増加
- 資産運用に伴う投資有価証券の取得額の増加

	2005年 1-3月期	2005年 4-6月期	2005年 7-9月期	2005年 10-12月期	2006年 1-3月期	2006年 4-6月期
営業活動によるキャッシュフロー	621	131	291	(41)	467	536
税前損益	(1,116)	(617)	(692)	(536)	(1,772)	75
連結調整勘定償却	923	923	923	923	923	923
減価償却費	119	127	143	162	154	275
法人税等支払額	(4)	(8)	(2)	(35)	(392)	70
その他	699	(294)	(81)	(555)	1,554	(807)
投資活動によるキャッシュフロー	(298)	(303)	(147)	(328)	(7,711)	(195)
投資有価証券の取得・売却	(96)	(75)	0	30	(7,303)	837
子会社株式の取得	0	0	0	0	0	0
その他	(202)	(228)	(147)	(358)	(408)	(1,031)
財務活動によるキャッシュフロー	(24)	30	(32)	12,829	(123)	(226)
株式発行による資金調達	17	15	3	12,918	4	3
有利子負債の増減	(36)	17	(35)	(95)	(127)	(228)
その他	(5)	(2)	0	6	0	(1)
為替調整	15	10	8	(82)	(8)	(30)
現金・現金同等物残高の増減	313	(131)	120	12,380	17,108	9,732
現金・現金同等物の期末残高	4,733	4,607	4,728	17,108	9,732	9,023

(単位:百万円)

通期の見通しについて



■ 売上高

- 海外の出荷が好調、アップサイドの可能性
- 国内はドコモ向けが好調なものの、それ以外ではダウンサイドリスクも
- フレームワーク関連売上高を現段階で計画に織り込むのは時期尚早
 - 商用出荷のタイミング
 - 可能性としては技術支援関連で売上高の計上も

■ 営業費用

- 下期は第2四半期と同程度の水準が想定される
- 第1四半期の一時的費用を吸収するような費用削減は困難

■ 損益

- 売上高が期初計画並みに留まるのであれば、損益面での達成は困難
- 売上高のアップサイドがどの程度の水準になるかを精査中

ミドルウェア・フレームワークの進捗について

■ ビジネスモデル

- キャリア別ソリューションの提供
 - 各キャリア個別のスペックに対応した標準モデル(Reference Implimentation; RI)の提供
- Build-to-orderモデル
 - RIに加え、オプション的な機能追加を容易に
 - フレームワークを利用することで機能の追加・削減が容易に
- 2つの主要プラットフォーム
 - Linux
 - BREW

■ 開発の進捗状況

- 自社IPの開発規模の想定:総額約40億円は計画通り
- 2005年12月期第4四半期ならびに2006年12月期第1四半期に約5億円を費用計上
- 第2四半期以降はソフトウェア資産への計上
- 最初の製品納入は年内～2007年12月期第1四半期を目標

携帯電話市場を取り巻く環境



■ 消費者

■ キャリア

■ サービスの高度化、多様化

- Felica、ワンセグ、音楽ダウンロード
- FMCの想定とトリプルプレイ、クアドロプレイ(グランドスラム)
- MVNOによるニッチ市場向けサービス

■ セットメーカー

■ 少量多品種化による1機種あたりの開発コストの低下の必要性

■ 高機能化による開発コスト増加プレッシャー

■ ブランド、デザイン、サービス主導の流れも

- 宝飾携帯: Goldvish、Vertu、Black Diamondなど
- ブランド携帯: AQUOS、Walkman、iPod、Serene(SamsungとBang & Olufsen)など
- デザイン携帯: au design project、Nokia L'amour Collection、Motorola
- サービス: NokiaのLoudeye買収、MotorolaのMOTOmusicの展開など

■ 部品ベンダー(チップセット、ソフトウェアなど)

■ 高機能化により単一製品から統合ソリューションの提供へ

■ プレーヤーの淘汰: 水平統合と垂直統合

携帯電話市場を取り巻く環境

■ 消費者の嗜好についての想定

- 一般消費者の購買活動は効率の追求より個人的嗜好に基づく傾向が高い
- 高価で非効率的な物に興味を引かれることが多い



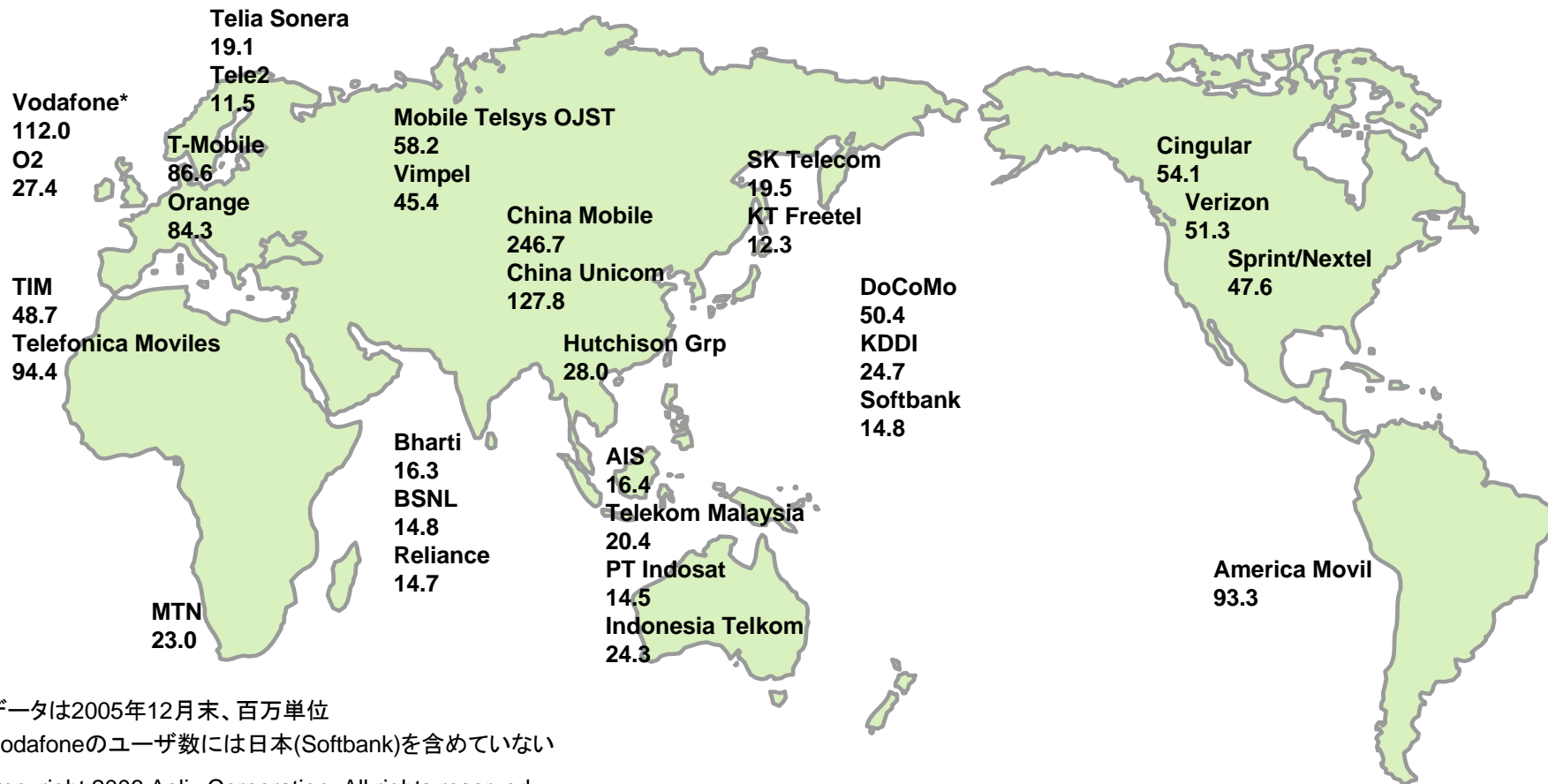
均一化より差別化

携帯電話市場を取り巻く環境



■ キャリア

- 市場の成熟度:人口、音声ARPU、データARPU
- サービスの高度化・多様化
 - 3G/3.5G化と通信方式、端末開発へのコミットメント
 - FMCとトリプルプレイ、クアドロプレイ(グランドスラム)



データは2005年12月末、百万単位

Vodafoneのユーザ数には日本(Softbank)を含めていない

Copyright 2006 Aplix Corporation. All rights reserved.

携帯電話市場を取り巻く環境



■ デザイン、ブランド、サービスの強化



Goldvish
Le Million De La Nuit



Vertu
Signature



Samsung/Bang&Olufsen
Serene



Nokia
L'amour Collection
7360/7370/7380



SEMC
Walkman
W850i



Motorola
iPod phone
SLVR



Casio
G'z One
W42CA



SHARP
AQUOS
V905SH

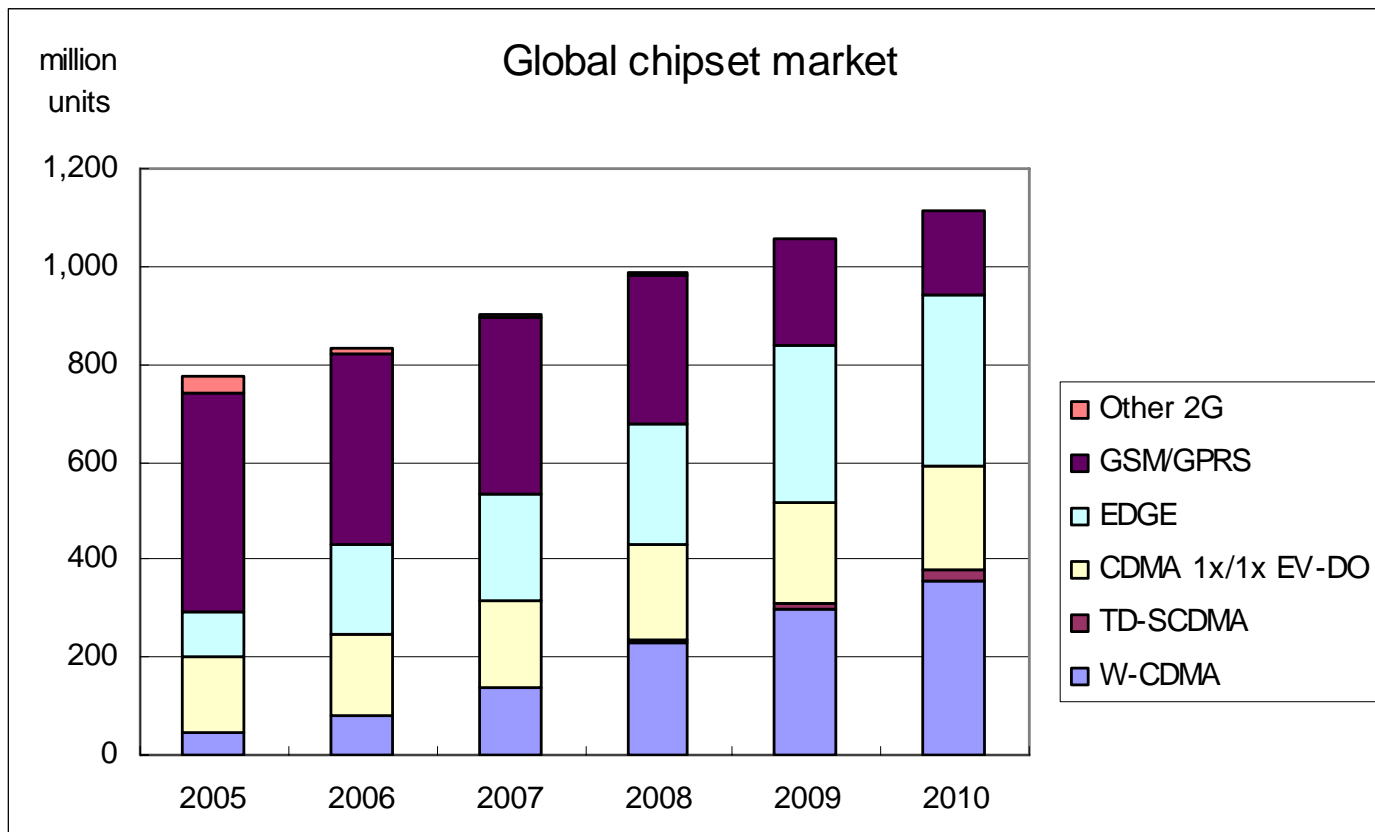


SEMC/Jaren Goh
Black Diamond

携帯電話市場を取り巻く環境

■ 3G/3.5Gへのシフトとデータサービスの高機能化

- 日本・韓国・北米等で1xEV-DOやHSDPAのサービスがスタート
- 欧州等での3Gへの移行
- 中国での3Gライセンス



出所: Techno System Research

携帯電話市場を取り巻く環境

■ 高機能化に伴うソフトウェア処理の複雑化

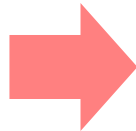
- マルチスタック、マルチタスク化がメーカー、モデルによりばらばら

音楽を聴きながら

プレーヤー
音楽フォルダ

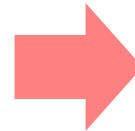
写真をメールで送ろうとしている

メール作成
画像フォルダ
メニュー
待受



着信する

着信画面
着メロ着うた
アドレス帳
着信



元の画面に戻す

メニュー
待受

複雑化すればするほど、
タスク管理、アプリケーション管理の方法論が必要
となってくる

プレーヤーはバックグラウンド？ディスプレイに何らかの表示？

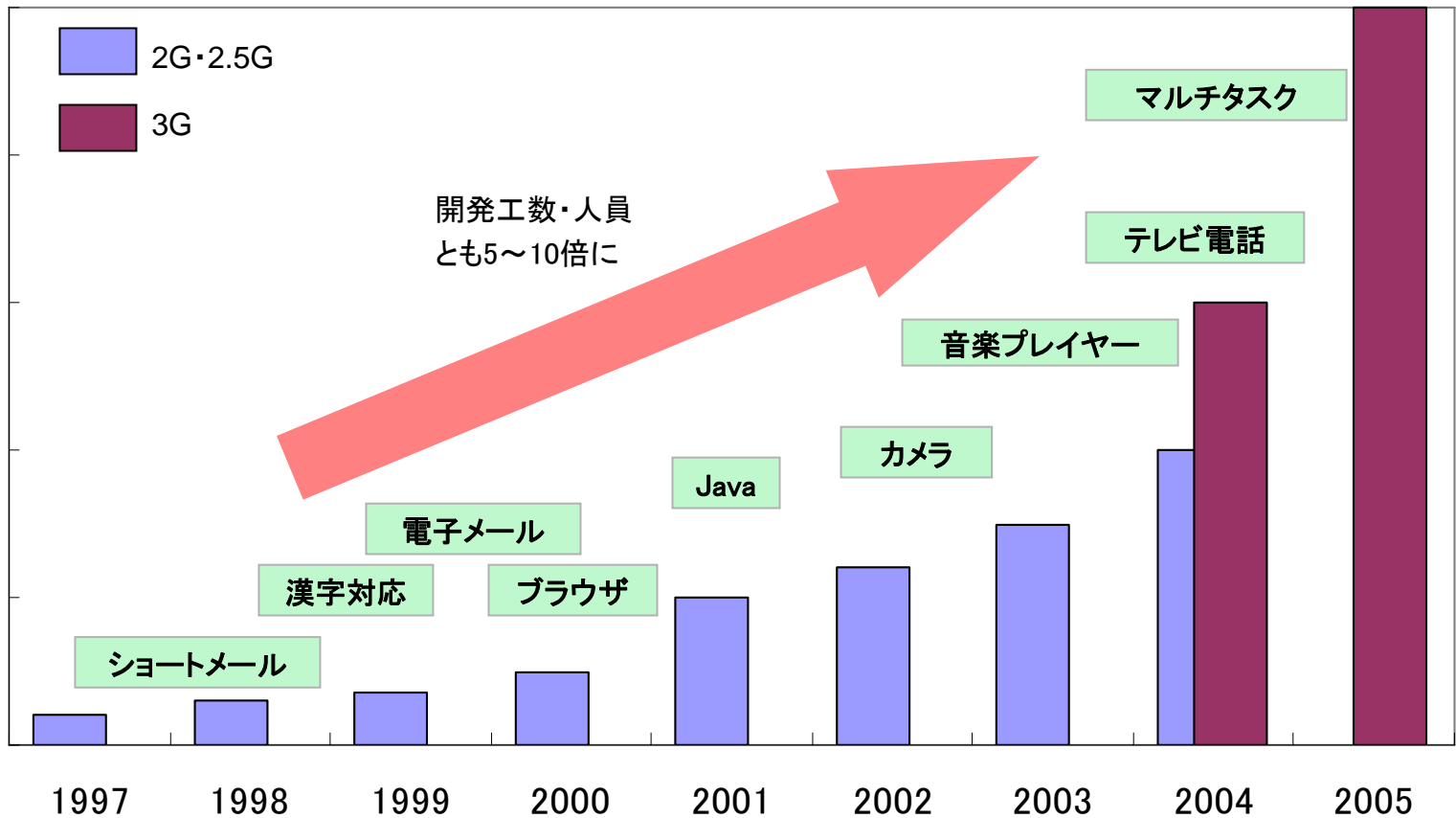
プレーヤー、メーラーは中断？バックグラウンドでアクティブなまま？保存して終了？保存せずに終了？

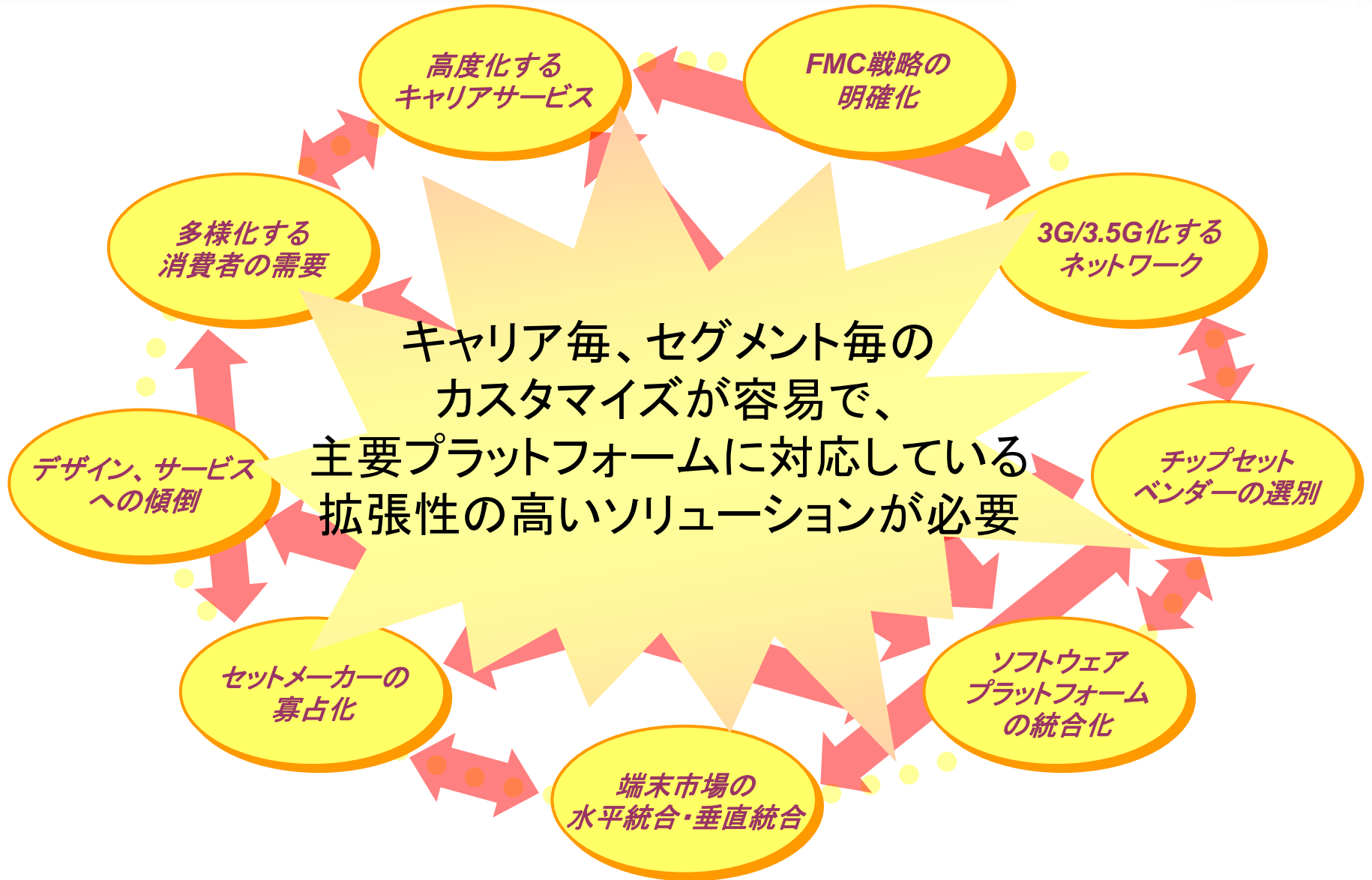
音楽は自動再開？確認画面？メール画面は自動的に回復？保存したまま？

携帯電話市場を取り巻く環境



- 高機能化による開発コスト増加
 - ソフトウェア開発工数は3G化以降急速に増加

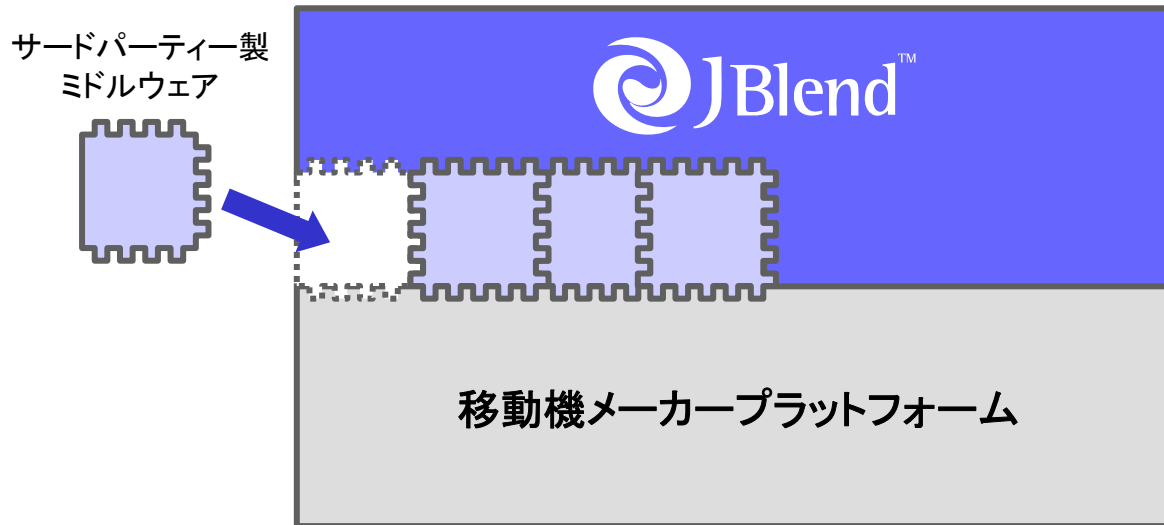




■ Java実行環境における経験

■ ブロケットイ戦略

- ソフトウェア、ミドルウェアがキャリア毎に異なる
- JBlendとサードパーティー製ミドルウェアがブロケットイのように簡単に接続できるようにして移動機メーカーに提供
- 50社以上のソフトウェアベンダーと連携

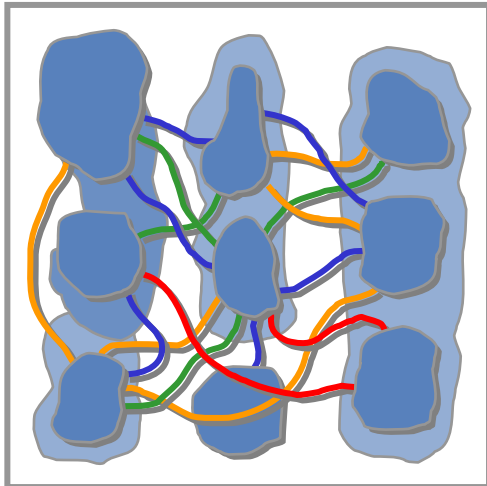


Javaアプリケーションの実行環境であるJBlendは、さまざまなミドルウェアと協調動作するソフトウェアであり、ブロケットイモデルの選択は自然な流れだった

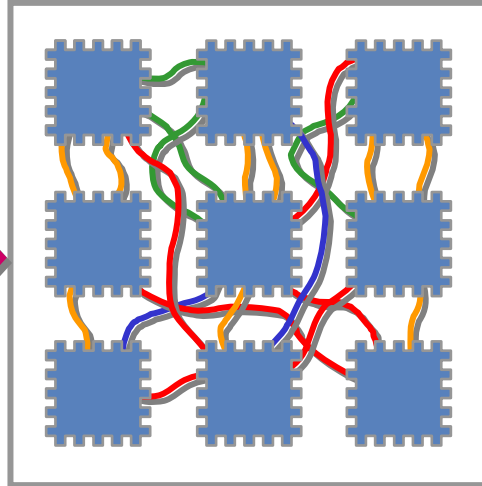
ミドルウェアフレームワーク - 開発コンセプト

- Javaにおける経験をJava以外 (ネイティブ)に拡張し、さらに機能を付加していく
- 3つの主要機能の開発
 - 各コンポーネントの接続面の標準化 - 容易に交換可能なモジュール化
 - 共通プラットフォームの提供
 - マルチタスク機能の提供

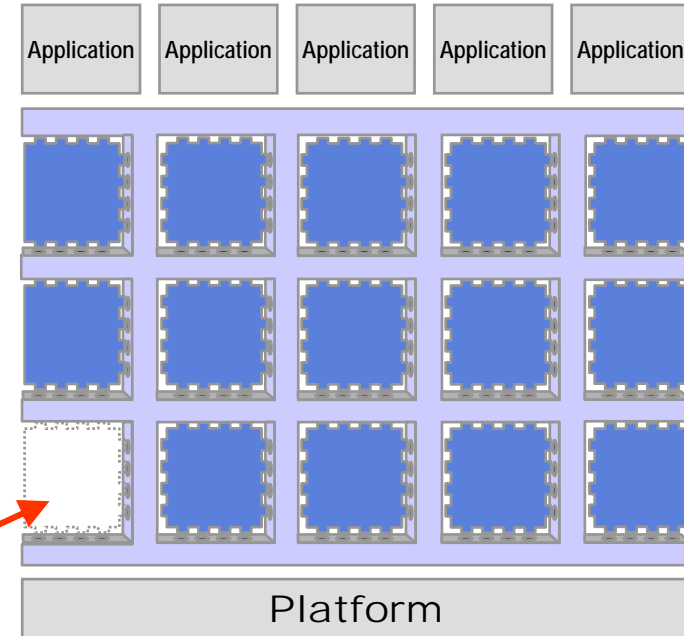
現状



フェーズ1 モジュール化



フェーズ2 フレームワーク化



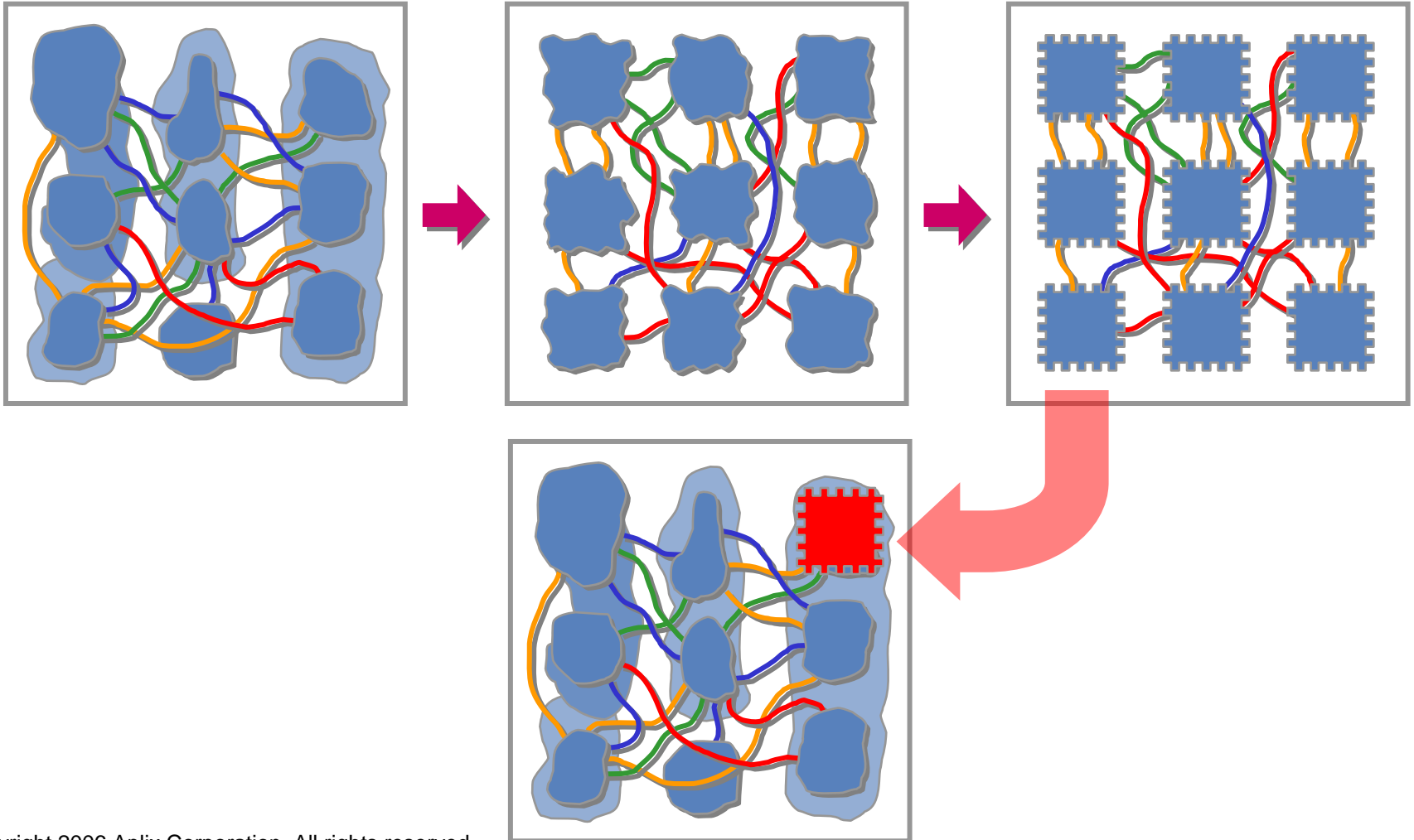
複雑化している各ソフトウェア部品のモジュール化
によって各部品を容易に交換できるようにする



ミドルウェアフレームワーク - 開発コンセプト

■ フェーズ1 - モジュール化

- 既存コンポーネントのモジュール化と商用モデルへの適用

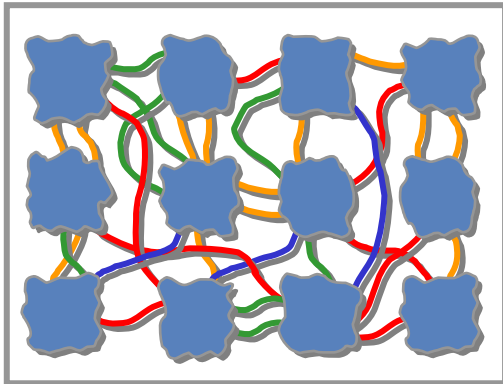


ミドルウェアフレームワーク - 開発コンセプト

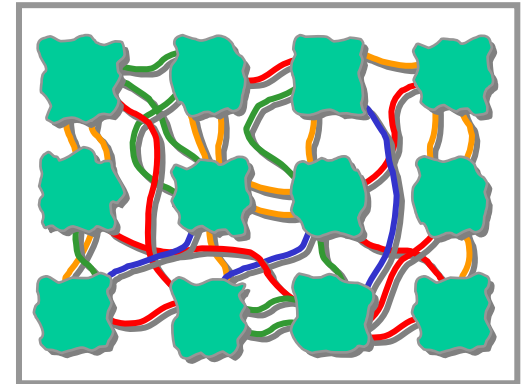


- フェーズ2 - フレームワーク化
 - フレームワークの提供と容易なモジュール交換

BREW携帯

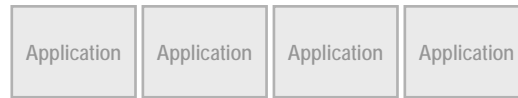


LINUX携帯

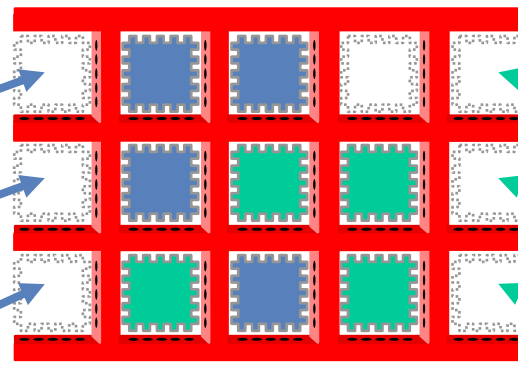


共通プラットフォーム

共通API化による既存技術の活用

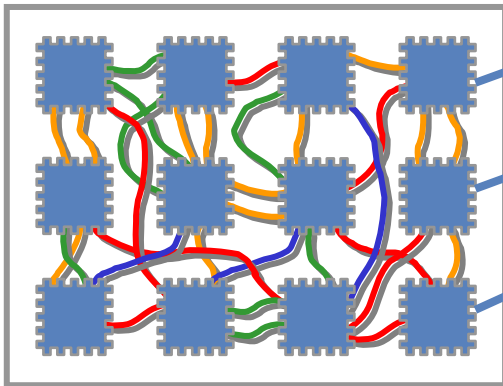


User Interface

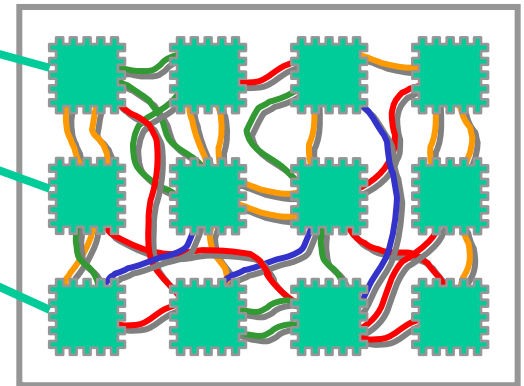


platform

モジュール化



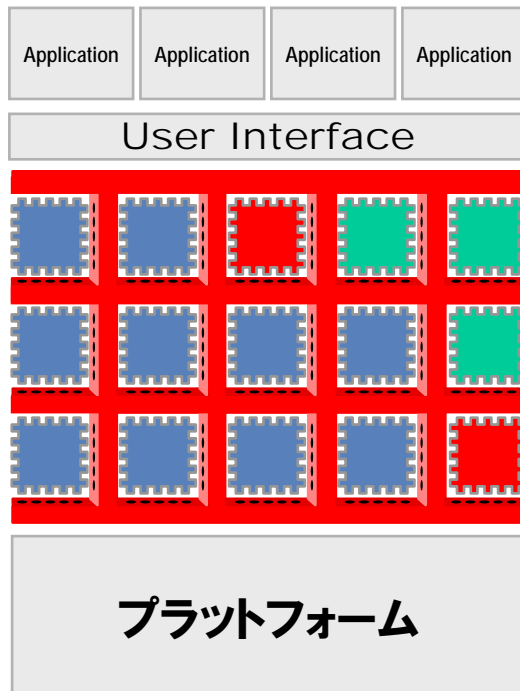
モジュール化



ミドルウェアフレームワーク – BTOモデル



- BTO(Build-to-order)携帯電話ソフトウェアソリューションの提供
 - 各キャリア向け標準モデル(Reference Implementation – RI)の提供
 - RIとともに様々な追加コンポーネントを提供
 - アプリックス1社でベンダーコンポーネント、サードパーティコンポーネント、自社コンポーネントを統合した顧客の要望に柔軟に対応するソリューションや端末設計を提供



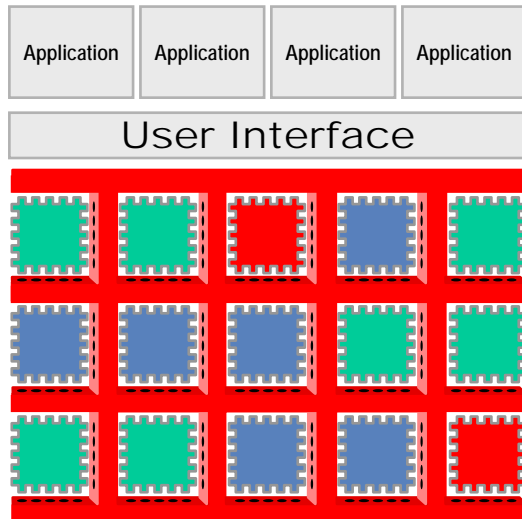
- キャリア標準コンポーネント
- サードパーティコンポーネント
- Aplix 自社コンポーネント

顧客の需要に応じて、
様々なコンポーネント
を組み合わせ、統合ソ
リューションの提供が
可能になる

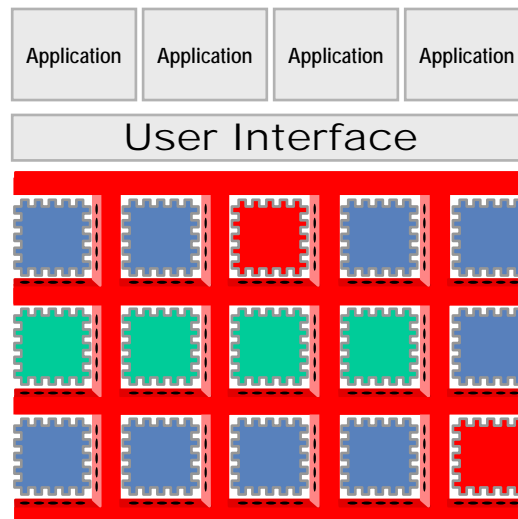
ミドルウェアフレームワーク – 潜在市場と事業展開方針

- 各キャリアの差別化戦略への対応: キャリア別標準モデル(RI)の提供
 - Javaでの経験: キャリア毎に主要ソフトウェアコンポーネントが異なる
 - 今後もキャリア毎にソフトウェアの差別化が続くものと想定
 - 複数のキャリアのRIを提供

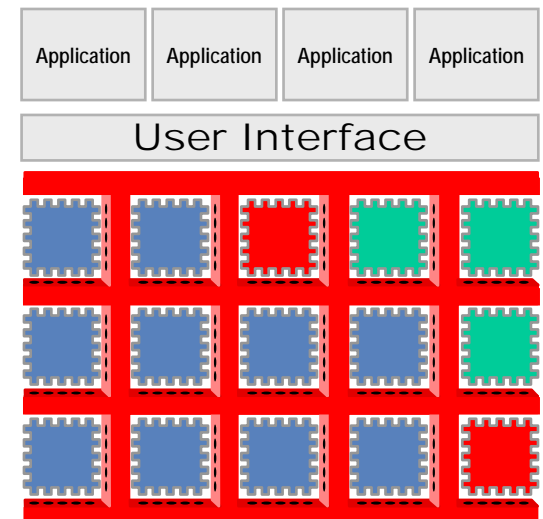
キャリアA向けRI



キャリアB向けRI



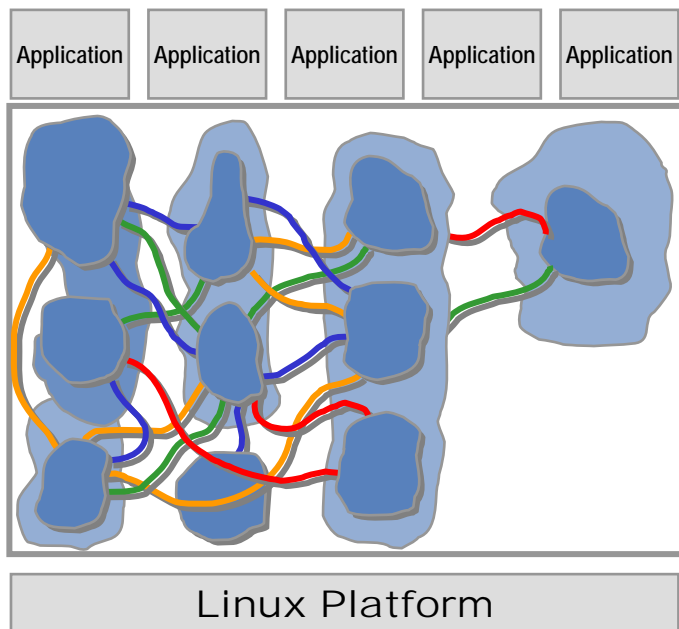
キャリアC向けRI



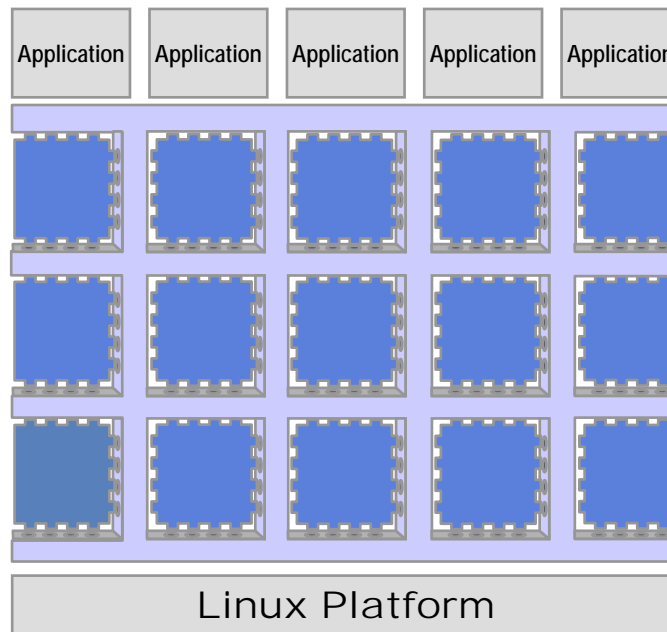
■ Linux向けの開発

- 商用レベルの携帯電話Linux: MOAP(L)とEZX
 - 両プラットフォームとの互換性を確保
- 各標準化団体での標準化作業を考慮
 - 6社連合
 - CE Linux Forum (CELF) – Mobile Phone Profile Working Group (MPPWG)
 - Linux Phone Standards (LiPS)
 - Open Source Development Labs (OSDL) – Mobile Linux Initiative (MLI)

現状: モデルごとに大幅なインテグレーションコストが発生している



AMF: コンポーネント化でインテグレーションコスト、リードタイムを大幅に削減



■ Qualcomm BREW向けの開発

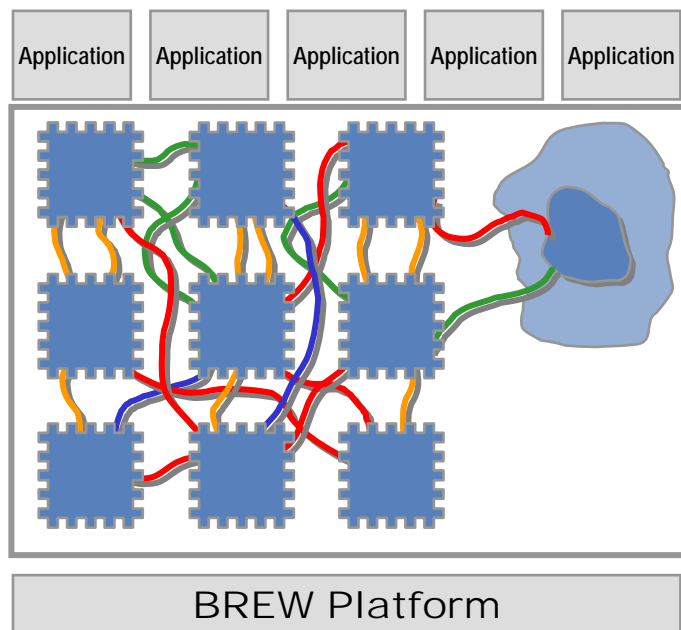
■ MSM6280チップセット

- 3GPP Release 5.0に準拠したW-CDMA (UMTS)ソリューション
- HSDPA対応
- 広範囲なマルチメディア機能をサポート

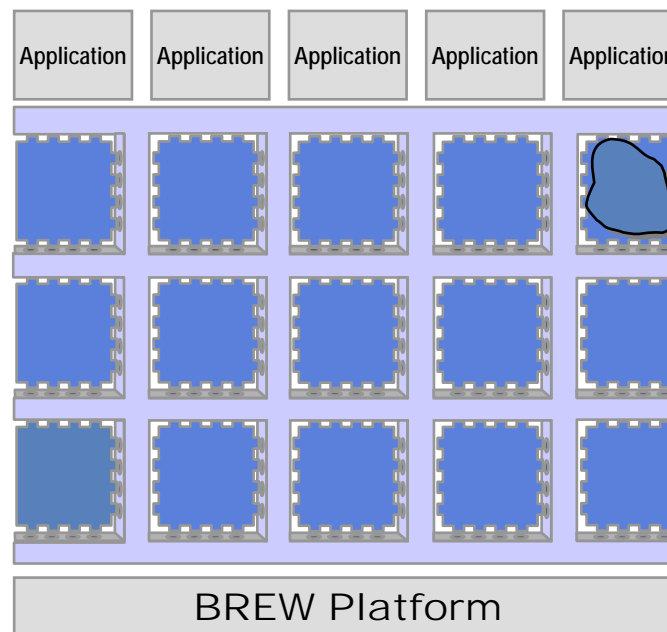
■ BREWプラットフォームへの新規機能の追加工数の削減

■ BREWで提供されていない機能の追加が容易に

現状：機能の追加には大幅なインテグレーションコストが発生している



AMF：機能追加に伴うインテグレーションコスト、リードタイムを大幅に削減





株式会社 アプリックス